Latvija
日本ラトビア音楽協会ニュース
第6号
（2006年12月30日発行）

日本ラトビア音楽協会事務局
〒229-0014 神奈川県相模原市若松1-14-10 遠藤税理士事務所内
Tel 042-745-3334 Fax 042-740-4725
E-mail 0424668801@jcom.home.ne.jp
発行代表者 加藤晴生
〒277-0823 千葉県柏市布施新町2-18-9 Fax 04-7132-5423
Tel 03-3568-7227 Fax 03-3568-7229
E-mail katohr@earth.ocn.ne.jp
kato@heisei-business.co.jp
編集代表者 徳田浩
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田3-31-6-504 柔道新聞編集室
Tel・Fax 03-3203-0363
E-mail htoku@pastel.ocn.ne.jp

第2回指揮者交流プロジェクト

アイラ女史、N児定演で感動的な成功収める

心に届いた歌の国・ラトビアの輝き

会場を感動の嵐で包み込んだ第4ステージとアイラ・ビルジーニャさん
写真提供: NHK東京児童合唱団
Photo: ©渡辺 カ

大使も感極まり、しばし絶句

11月26・27日の両日、東京オペラシティコンサートホールで行われた第35回NHK東京児童合唱団（以下N児）定期演奏会第4ステージで、当協会が招聘したし指揮者アイラ・ビルジーニャ女史がラトビアのうた12曲を演奏、感動的なステージになり、歌の国・ラトビアの素晴らしさを全観客の心に浸透させた。招待席の大使をはじめラトビアの関係者たちはしばし、無言。ステージのメンバーたちも、気持ちが高ぶり感極まって涙を流す子もいた。

今回の公演は当協会が主宰する指揮者交流プロジェクト第二弾。今回の経費はLATVIJA第5号の名刺広告と寄付金収入、N児からの収入及びプログラム広告料で賄った。

演奏したのは同合唱団7歳～17歳の約240名。全曲を難しいラトビア語で暗譜演奏した（演奏曲目別掲）。

◇

アイラ女史は11月17日午前来日、同日夕、当協会有志による歓迎会打ち合わせ会に臨み、18日からN児と練習が始まった。メンバーは初日から全員ほぼ暗譜面で臨み、女史を感嘆させた。3月頃からN児指導者たちが、それぞれ数少ない参考書で独学で勉強して発音を指導、7月にはラトビアで日本語を教えた経験がある福井美佐氏に翻訳を依頼して、それをもとに子供たちに正確な意味を教えた。さらに10月には大使館のオレグ・オルロフ氏が、子供たちに正確な意味と発音を教える念の入れようだった。

25日のゲネプロまでアイラ女史と子供たちは完全に打ち解け、最高の空気が醸し出された。練習の合間、子供たちはアイラ女史に「きれい」「きれい」と大きな声を出して親しく囲み続けていた。

28日に離日するまで、アイラ女史は会員の案内で鎌倉観光、はとバスによる東京観光、東京国立博物館・江戸東京博物館見学、ヴァイヴァルス駐日大使表敬訪問、N児スタッフとの夕食会、在京ラトビア人との昼食会、当協会会員との懇親会出席、平均年齢75歳の稲門グリーシニア会練習見学など、日本を満喫した。

24日は、ラトビア曲で全日本合唱コンクール銀賞に輝いた川越女子高校合唱団を訪問、実りある交流を深めた（別掲）。

05年8月N児関係者と初会合
多くの方々の協力で実現した

そもそも日ラ指揮者交流プロジェクトは、加藤専務理事が03年の「ラトビア歌と踊りの祭典」を視察した時、アイラさんと彼女が率いるリーガ大聖堂少女合唱団の訪日について話し合った時に始まった。アイラさんは日ラ両国の指揮者が夫々自国の歌を相手国の青少年に指導する案を提案、加藤氏も長年、子供の頃からお互いの国に関心を持たせることが国際交流にとって大切だと考えていたので、この案に賛成して帰国した。04年に協会設立、05年春から準備に入り、松原千振氏の協力と国際交流基金の助成を得て、06年1月に第1回プロジェクトを実施して成功を収めた。

今回のプロジェクトは第1回とほぼ同じ時期から準備を始めた。日本側の受け入れ先はN児を第一候補とし、05年8月2日に関係者と初会合を持った。N児側は栗山文昭音楽監督と関係者数名、協会側は加藤専務理事他、黒澤幸雄常務理事、田摩勇運営委員が同行した。栗山音楽監督はラトビアを何度か訪問され、ジンタルスがグランプリをとった92年トロサ（スペイン）のコンクールでの演奏を実際に聴いておられた。ラトビアの合唱レベルをよくご存じで交渉はテンポよく進み、その日のうちに基本的なことが合意された。

N児側と話し合う前段で、早稲田グリーOBでNHK解説委員として活躍中の影山日出夫氏が紹介の労を担ってくれたことが大きかった。

06年1月、ラトビア側から演奏曲目候補の提示があり、これに基づき、3月にN児側から曲目提示、「風よそよげ」は日本人の編曲でやりたいと付記された。正式に曲目の調整が終ったのは6月に入ってからだった。

この間、著名な作曲家（100万本のバラなど）でピアニストのR・パウルスをアイラと共に受け入れるか、と打診があり、スポンサー候補も現れたが、パウスル自身の対応がはっきりせず、時間切れになった。

10月に入り、加藤専務理事は現地ラトビア語新聞社6社にプレスリリースを行うなど、広報活動も万全を期した。最大紙のDIENAは、日本の子供たちがラトビア語を全部暗譜で歌う背景（練習経緯）や、ラトビアの第2国歌でもある「風よそよげ」を日本の著名な音楽家が編曲することなどに大きな関心を示した。

“あい・きずな・ひろがり”

ステージを構成・演出した東龍男氏（作詞・脚本家）は次のように述べた。「演奏会の副題は“日本・ラトビア友好　あい・きずな・ひろがり”です。なんと素敵な副題でしょう。ラトビアの首都リーガは“バルトのパリ”と呼ばれているとても素敵な町です。ラトビアは歌う民と呼ばれているように、合唱団で歌うことと民族ダンスを踊ることは、人生の日課の一つだとしています。そのラトビアの歌を演奏曲目に選んだみなさんの心は“あい・きずな・ひろがり”にぴったりです。素晴らしいコーラスを聞かせてください」。

◇

本番は2晩で3000人の聴衆が酔いしれた。子供たちが手作りの大地図でラトビアを紹介し、代わる代わる曲目を紹介する演出は、音楽を通じて子供の頃からお互いの国を知り合って欲しいという当協会のコンセプトが見事に具現されていた。（徳）

第3回総会・新年会のご案内

首題の件、下記の通り開催します。皆様のご出席をお願い申し上げます。

日時　平成19年1月21日　12:00～12:30
会場　新宿三井クラブ（新宿三井ビル54階・電話03–3344–5454）
※11:00から理事会開催　顧問・オブザーバの参加歓迎
※総会終了後12:30より新年会開催　ご家族ご友人の参加歓迎
会費　日本人会員及び同伴者　8000円
ラトビア人会員及び同伴者　5000円
ラトビア人留学生　無料
出欠のご意向を1月15日までに事務局へお知らせください

演奏会評

ラトビア曲を感動的な演奏で魅了

NHK東京児童合唱団
第35回定期演奏会
平成18年11月26・27日
東京オペラシティコンサートホール

黒澤幸男（当協会常務理事・くらしき作陽大学音楽部教授）

日本ラトビア音楽協会では文化交流事業の一環として、アーティストの交流に尽力しており、第1回目として合唱指導者の松原千振氏を派遣しているが、今回はラトビアから合唱指導者として知られるアイラ・ビルジーニャ女史を招き、NHK東京児童合唱団の定期演奏会を指揮する機会を設けた。

NHK東京児童合唱団（略称N児）は日本を代表する児童合唱団で、あ小学生から高校生までの少年少女をメンバーとし、これまでの演奏活動を通じて芸術祭賞などさまざまな賞を受けている。メンバーは年代ごとに三つのクラスに分かれて練習を重ね、年に1度三クラスが合同で定期演奏会を行っている。現在の音楽監督は栗山文昭氏。

アイラ・ビルジーニャ女史はラトビアの代表的女声合唱団ジンタルスの指揮者アウズマ・デルケビッツァのもとで研鑽を積み、現在は同合唱団の音楽監督兼指揮者の要職にあるが、同時にリーガ大聖堂少女合唱団の指揮者でもあるところから、今回のN児の指揮をとることになったものである。

彼女が指揮したのは演奏会の最後を飾るラトビアの合唱曲を集めたステージ。今年は駐日ラトビア共和国大使館が開設された記念の年でもあり、合唱団が手作りの地図でラトビアという国の位置を紹介したり、代わる代わる演奏する曲目を紹介したりと、ゲストとして招かれたアイラ女史を歓迎する趣向が微笑ましかった。

演奏したのはラトビアの代表的作曲家ライモンズ・パウルスが編曲したラトビアの民謡や彼のオリジナル曲が中心で、合唱団のよく練り上げられたアンサンブルと、メンバーの音楽性を引き出すアイラ女史の卓越した指導力があいまって感動的な演奏を展開し、満員の聴衆を魅了した。

アンコールとしてラトビアで愛唱されている「風よそよげ」が、現在日本でもっとも活躍している信長貴富氏の編曲で演奏され、会のフィナーレを締めくくった。

演奏会終了後、アイラ女史を送ろうとロビーに集合した合唱団のメンバーを前に、素晴らしい演奏を称える挨拶があり、加えて日本ラトビア音楽協会の加藤晴生専務理事の努力のお陰で来日できたことを感謝する言葉が述べられた。

Latvian Songs Programe for Aira Birzina in Tokyo

1. Kas kaiteja nedzivot(i) (All members)　生きていることはいいことじゃない
2. Asninu dziesma　新芽の歌
3. Sesi mazi bundzinieki　6人の小さな太鼓たたき
4. Vaska pils　蜜蝋の城
5. Raudosa debess　嘆く天
6. Vairs nesero　もう嘆かないで
7. Sunisam(i) maizi devu　犬にパンをあげた
8. Kur tad tu nu biji?　お前はどこにいたのか？
9. Tevs mamina　父よ、母よ
10. Savas majas, sava tevija　わが祖国

Encore:　アンコール

11. Es-cukgans,avju gans　羊飼いの歌
12. Put, Vejini (Arranged by Takatomi Nobunaga)　風よそよげ（信長貴富編曲）

アイラさん来日スナップ　①来日早々の打ち合わせで巧みに箸を使う　②NHKで練習開始　③鎌倉散策（地元の小川会員が案内、左は通訳を務めた堀口会員）　④協会有志による歓迎会で

第2回通常理事会

平成18年10月1日(日)、今年2回目の通常理事会が新宿三井クラブで開かれた。同日開催された在日本ラトビア共和国大使館開設祝賀会及びヴァイヴァルス初代駐日大使歓迎会に先立って開かれたもので、藤井会長以下、加藤専務理事、遠藤、徳田各常務理事、迫、長澤、久元各理事、頴原監事、神郡、レディー・マークス寿子、村山各顧問が出席した。司会は加藤専務理事。

【審議事項】

1．会員の異動状況報告（遠藤常務理事）

本年2月5日以降入会した会員は、下記の方々で15名増加。

・名誉会員

ペーテリス・ヴァイヴァルス駐日本国ラトビア共和国大使

・個人会員

赤池喜代（徳島）女声合唱団フラウリッヒヴォカール
石渡迪康（千葉）青山学院大学グリーンハーモニー合唱団OB会元副会長
井下佳和（北海道）北海道東川ラトビア交流協会
内野力（東京）日本ヒューレット・パッカード㈱
岡安弘二（東京）
岡安陽子（東京）
小野啓祐（埼玉）新座ロータリークラブ
小俣泰英（千葉）早稲田大学グリークラブOB会
熊谷敬子（東京）当会前会長夫人
田中　享（東京）日本ラトビア大使館顧問
中村昭貞（東京）東京稲門グリークラブ
長塚　徹（ラトビア）ラトビア投資開発公社
橋本恵子（千葉）前サンルートプラザ東京
堀口大樹（東京）東京外国語大学

◇

今回特に重要なのは、名誉会員としてラトビア大使ヴァイヴァルス氏が入会されたこと。

団体会員は主宰者をお知らせするため代表者氏名を個人会員の中に掲示した。

2．事業報告及び協議・提案事項（加藤専務理事）

（1）11月18日のラトビア国独立記念日に当たり、11月15日（水）に帝国ホテルで夕刻、大使館が記念祝典を開く。招待状が協会員各自に届く予定。

（2）第2回指揮者交換プロジェクトは、ラトビアからアイラ・ビルジーニャさんを招いて、11月26、27日にNHK東京児童合唱団の定期演奏会で指揮をしてもらう。アイラさんは11月17日に来日して、5回ほどの練習ののち定演を振る。その間、カルチャープログラムという形で日本の伝統文化、音楽などを見せたいので、観光案内的なことが必要となる。

（3）第3回プロジェクトは07年以降に日本からの派遣となるが、2案を考えている。一つは、日本の小学唱歌的な歌をラトビアの子供たちに教える。もう一つは、合唱団を日本から連れて行くというもの。もともと子供の交流を促進するという狙いなので、そういう観点から討議していきたいと考えている。

（4）2008年のラトビアでの「歌の祭典」へどういう形で参加するかが未定なので、近々委員会を設けて具体案をつくるつもり。本格的にステージに乗るとなると準備が大変と思われる。

（5）ラトビア女声合唱曲集の出版は、諸般の事情で2007年にずれ込むことになりそう。

（6）来年の総会は1月21日（日）開催予定。

（7）大鵬薬品の広告収入2回分40万円と名刺広告23万円、計63万円の収入があった（遠藤常務）

（8）日本ラトビア音楽協会の名簿発行について、近々個人情報保護の関係のアンケートを協会として実施する予定。

◇

最後に藤井会長から、9月23日紀尾井小ホールで開かれたドラマ・リーディング『溺れる花嫁』は、ラトビアを理解する上で大変よかったこと、国連次期事務総長にラトビア共和国大統領のミッチェフレイベルガ氏（女性）が有力な候補に上がっている。派閥もなく大変クリーンな人なので人気は高いなど話があった。

当協会主催

ラトビア大使館開設祝賀&ヴァイヴァルス大使歓迎会

10月1日午後、「ラトビア大使館開設祝賀会及びヴァイヴァルス大使歓迎会」が新宿三井クラブで開かれ、会員の協力でいつものように楽しい会となり、大使も上機嫌だった。

ヴァイヴァルス大使らを、出席した会員の歌う「ラトビア国歌」（長澤理事指揮）で迎えるという形で会が始まり、若干緊張気味の一行が入場して両国国旗の前に並び、初お目見え。加藤専務理事の司会で早速会が始められた。はじめに藤井会長から「大使館開設と大使就任については日本ラトビア音楽協会の会員みんなが喜んでおり、いろいろな大使館活動のサポートをしていくつもり」とあいさつがあり、これに対してヴァイヴァルス大使から、「初めて赴任する国に日本ラトビア音楽協会という信頼できる友人達がいるということは非常にうれしい。協会はラトビアの紹介を音楽や文化のイベントを通じて取り組んでくれている。また「Latvija」という新聞も大事な存在。深く感謝している」とあいさつがあり、併せて大使館員の紹介があった。

乾杯の音頭は、10年にわたって九州・福岡でラトビア支援の会を主宰している山本徳行さん（顧問・スウェーデン名誉領事）。山本さんは毎年ラトビア大学の学生を日本に留学させてその世話を全面的に行うなど、日本とラトビアの交流に取り組んでおり、長年の夢であったラトビア大使館が出来たことを心から喜んでいた。

しばらくの歓談ののち、田摩さん（運営委員）の司会で出席者自慢の出し物が会のご祝儀として始まる。最初に、日本の伝統芸能長唄の中の祝い歌「松の緑」が、唄・小川翠（みどり）会員（杵屋栄美翠）、三味線・徳田浩常務理事（杵屋巳朗）によって演奏された。徳田さんは演奏後「大使、日本では三味線が基本的な楽器になります。大使には日本に在任中にぜひ三味線を修得してお帰りいただきたい。1年くらいで大丈夫です」とコメントがあり大使がうなづく場面も。

続いて、東京外語大学学生（ロシア語科）の堀口大樹会員が、独学で習得したというラトビア語で「今日はラトビア語であいさつができることを感謝しております。私は5年前にラトビアにある日本語学校の事を知り、もっとこの国のことを知りたいと手紙を書きました。しばらくしてラトビア人の男の子から返事が来て書道を習っているということが書かれていました。私は驚くとともに感激してそれからラトビア語を勉強することを決めたのです。ですから今回の大使館の開設をとてもうれしく思っています」と挨拶し大きな拍手が起こる。

次に滝澤文一会員（リャザン・ロシア国立教育大学教授）の口笛演奏。「ラトビア国歌」のさわり、「もみじ」「カチューシャ」「熊ン蜂の飛行」を演奏。ピアノでの伴奏は口笛の先生の分山貴美子さん。鋭い高音を駆使しての演奏は相当の練習を積んだことをうかがわせ、滝澤さんの軽妙な語り口に会場は沸いた。

ここでNHK東京児童合唱団の運営委員長、八重樫克羅さんから、この11月26、27日に東京オペラシティーコンサートホールで開かれるN児35回定演でのラトビア人指揮者アイラ・ビルジーニャさんの客演指揮ステージについてあいさつと案内があり、ステージ全体を組み立てる東（あずま）龍男さんの紹介もあってこの演奏会への期待が高まる。また、職業柄TV映像文化の基礎的技術上の世界的先駆者であるエーゼンシュテインという人物がラトビア出身であることの紹介、独立時のバルト三国での“人間の鎖”に感動したことなども熱く語られた。

続いて、久元祐子理事（ピアニスト）が「ラトビア国立交響楽団と共演したのがモーツァルトでしたのでそのお礼と大使館のお祝い、それから生誕250年という気持ちでモーツァルトの曲で『幻想曲二短調K397』を弾かせていただきます」とのあいさつがあり、いつもながらの素晴らしいピアノ演奏を披露した。

次に会員の加藤登紀子さん（歌手）が所属するトキコ・プランニングの加藤幸子社長が「いま加藤登紀子がコンサートに出ているので今日参加できずに残念。本当なら『100万本のバラ』を歌わなくてはと思っているのですが…。今日はホームパーティーのような雰囲気で、これこそ真の国際交流だと日本ラトビア音楽協会のご努力にうれしく思いました。次回のラトビア音楽祭にはリーガで加藤登紀子のコンサートがもてればとも思っています。」とスピーチ。

このあと西脇久夫会員（ボニージャックス）が一曲歌うということになり、早川佳身さんのピアノ伴奏でカンツォーネの「彼の人に告げてよ」を見事に歌い上げた。とても70歳には思えない熱唱が会場に響き渡る。

大使館員も全員出席（左）し和気あいあいの懇談続く

またしばらくの歓談ののち、ラトビア大使館の顧問である田中享（すすむ）会員からこの会への大使館としての答礼スピーチ。「まずお話ししたいのは、私がラトビアで臨時代理大使を務めていた昨年、日本が国際連盟の常任理事国に立候補したときに、ラトビアは大統領、首相、外務大臣、ここにおられる大使全員が初期の頃から支持してくれました。ラトビアの最高のレベルのかたがたが日本の世界における位置付け、日本が世界の平和と安全というものを考えているということを分かってくださっていて、すぐさま応援すると言ってくださったのです。私はそのさわやかさ、世界的な視野の広さに驚いた次第です。二つ目に、ラトビア大使からのメッセージです。大使はこの日本ラトビア音楽協会は最も重視すべき団体であるとの認識であり、感謝しております。現在大使館は本国からインテリアデザイナーを呼び寄せて内部の改装のための設計中ですが、ドイツよりも優れていると言われたラトビアの木彫による改装を進めており、公邸と事務所完成のあかつきには皆様をぜひご招待したいということです。三つ目に、ラトビアは1991年に独立した小さな国（ベルギーとオランダを合わせたくらいの広さ）ですが、世界地図から見ますと世界の中心はバルトであって、日本が地の果てということからしますと、一種の価値観の転換、パラダイムの転換を持っています。ラトビアは世界に46の大使館をもっていますが、この日本大使館はラトビアが世界に対して展開した一番新しい大使館であり、カナダ、アメリカでも館員は3～4人のところ日本は初めから4人の館員を配するという日本重視ぶりです。なおヴァイヴァルス大使は外務省のナンバー3でもあります。大使及び大使館に代わりまして、本日のお礼を申し上げます」。

最後に、中締めとして北海道東川町ラトビア交流協会の飛騨野一重さんが「諸般の事情でいま遅れて着いたばかりなのにいきなり中締めのあいさつをということで面食らっています。何も食べていないところにジャネッタさん（パレックス銀行）が持ってきてくれた飲み物をグイッと飲んだらこれがウイスキーで目が回っています（笑い）」。『（会場から差入れ）もういっぱいどうぞ！』「さらにですか（笑い）」。「今年、東川はラトビアフィーバーでした。ジャネッタさん、ラトビア大使始め大使館のかたがたが見えて楽しい夏を過ごしました。また秋にはラトビアからお客様が見えるようですので楽しみにしています。東川町も素晴らしい所ですので会員の皆様もぜひ訪れていただきたいと思っています」とあいさつの後、一本締めで閉会となった。

閉会後も名残のつきない会員がそこここで談笑の輪を作って、余韻を楽しむさわやかないい会合となった。

ラトビアの素晴らしい木彫で飾られるという大使館の完成が待ち遠しい。（頴原記）

出席者

◆ラトビア大使館関係

P・ヴァイヴァルス大使、一等書記官、二等書記官、秘書
田中享（顧問）、オレグ・オルロフ（通訳）

◆日本ラトビア音楽協会

藤井威（会長）、藤井明子、加藤晴生（専務理事）、加藤民子、遠藤守正（常務理事）、徳田浩（常務理事）、迫秀一郎（理事）、長澤護（理事）、西脇久夫（理事）、久元祐子（理事）、頴原信二郎（監事）、神郡克彦（顧問）、村山喜一郎（顧問）、山本徳行（顧問）、レディー・マークス寿子（顧問）、田摩勇（運営委員）、Alina Ascepkova（山本徳行さん同伴）、Zaneta Sudniece（パレックス銀行）、青柳アリサ（〃）、ドミーヨリス（〃）、八重樫克羅（NHK）、堀紀子（〃）、東龍男（〃）、飛騨野一重（東川町）、石川了、石川弥貴、石渡迪康、岩崎朋子、内野力、浦澤博子、小川翠、小山田安宏、加藤幸子、加藤純子、熊谷敬子（前会長夫人）、鈴木久美子、小林信一、小松原るな、小山雄二、小山恵、小山奈緒子、志摩園子、清水光子、滝澤文一、辻智子、中田彪、中田弛子、早川佳身、原健之、藤田昌嗣、堀口大樹、八木昌子、分山貴美子、植木俊之、菊池勇介、中根浩貴、志波昭宏、熊崎陽一（以上65名）

大使館がラトビア独立記念日祝賀レセプション開く

11月15日 帝国ホテル

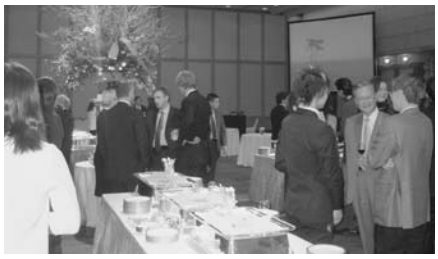
駐日ラトビア大使館は11月15日夕、帝国ホテル「孔雀の間」で同国独立記念日祝賀レセプションを行い、政官財界の重鎮など260余名が来場して祝意を表した。扇千景参議院議長、岩屋毅外務副大臣、中曽根弘文日本ラトビア友好議員連盟会長、島田精一住宅金融公庫総裁や宮内庁関係者の顔も見えた。記念日は11月18日で、本国ではこの日に盛大に祝われるが、土曜日に当たるので日本では繰り上げで開かれた。過日の大使歓迎会に出席した当協会会員も全員招かれ、親しく懇談した。当日はスピーチなど一切なく、来場者がそれぞれ、大使にお祝いの言葉を掛け、あとは自由な談笑の場になった。BGMにラトビア最高のサックスフォン奏者であるヴィンティス・ヴバルツさんが、さりげなく美しい音色を響かせていた。

第1次世界大戦でドイツに占領されたラトビアが、1918年11月18日に独立宣言したのが記念日の由来。しかし第2次大戦中に今度はソ連に併合されるなど苦難の歴史が続き、再独立は1991年8月まで待たねばならなかった。

11月18日付けのジャパンタイムスはラトビア独立記念日特集ページを組み、カルヴィティス首相、ヴァイヴァルス駐日大使に並んで藤井威当協会会長がメッセージを掲載した。

本紙前号で、大使が6月にボーイスカウトの縁で富士市を訪問したことを伝えたが、この日、川島泰彦氏ら富士市のボーイスカウト関係者13名も招かれた。

終始接待役を務めたラトビア関係者　大使は正装で出席



ラトビア独立記念日の由来

日本から遠い国・ラトビアの歴史は殆んど知られていない。ラトビアの独立記念日の意義、歴史と、逸話などを、現地を訪問して研究を続けた外務省外交資料館白石仁章氏に伺ってみた。

◇

「何て“まっ平ら”なのだろう！」

ラトビアの首都リーガ近郊の空港に降り立ち、初めてバルト三国の土地を踏んだ瞬間の感想がそれだった。ともかく山らしい山が見えず、思わず360度ぐるりと見渡してしまった程だ。ラトビアは現在「花と歌の国」と呼ばれ、首都リーガは中世の面影を残す美しい街で「バルトのパリ」とも呼ばれる。しかし、平坦な国土、現在の美しい街並みとは裏腹に、スウェーデン、ポーランド、ロシアなど様々な国の支配を受け、ロシアの支配下で巻き込まれた第一次世界大戦では、ドイツ軍の侵攻を受けた。ラトビアの人々は雄雄しく抵抗したが、遂にドイツに占領されてしまった。そんな中で、ラトビアの人々は独立を強く願い、ドイツに革命が起き連合国と講和した1918年11月11日直後の11月18日、ついに独立を宣言した。

ところが、その後もラトビアに残っていたドイツ勢力、ロシア革命により成立したソ連政権を認めないロシア人たち、そしてソ連といった諸勢力がラトビアを舞台に争い続け、ラトビアの独立が安定したのは、1920年4月にソビエトと平和条約を結んでからであった。しかも、それからちょうど20年後の1940年、第二次世界大戦の最中、ラトビアはエストニア、リトアニア同様ソ連により併合された。ラトビアの独立は再び奪われ、再独立は約半世紀後の1991年8月まで待たねばならなかった。

実は、ほとんど知られていないが、この苦難の道を歩んだラトビアと日本は、戦前期に親しい関係にあった。イギリスに次いでラトビアの独立を承認したのは、当時国際連盟の常任理事国の一つであった日本だった（1921年1月26日）。日本はバルト三国の真中に位置するラトビアを日本にとって脅威であったソ連の情報を得るために重視し、バルト三国では唯一公使館（当時、大使館を置くことは希で、多くの国には公使館をおいていた）を設置し（初代公使の任命は1928年、公使館開設は翌年）、当初駐ラトビア公使は駐ドイツ大使が兼任していたが、1936年には専任の公使を置き、翌年には駐ラトビア公使が駐エストニアおよびリトアニア公使を兼任することとなった。また、ラトビアにはソ連関係の情報収集のため、ソ連通の優秀な外交官達が派遣されたのであった。

そのラトビアを含むバルト三国にこの度天皇皇后両陛下が訪問されることとなった。多くの日本人にとってなじみの薄かったラトビアが身近な存在となり、戦前のように両国の関係が緊密化してゆく日も近いであろう。皆さんもラトビアの空港に降りた時には是非360度見渡して下さい。（S. T）

LATVIA INDEPENDENCE DAY

Prosperous, stable future is assured

By PETERIS VAIVARS
Ambassador of Latvia

On the occasion of the National Day of the Republic of Latvia, commemorating the 88th anniversary of the Declaration of the Independence of the Republic of Latvia, it is with great pleasure and the deepest respect that I send my heartfelt greetings to the people of Japan on behalf of the people of Latvia.

This is an especially memorable National Day for us in that for the first time in our very long history, we are celebrating it in Japan, where we opened our embassy in April. Since I took up the post as the first ambassador in Japan, I have been overwhelmed by the genuine friendship and guished singer, Tokiko Kato, popularized a well-known Latvian song called "A Million Roses — Hyakumanbon no Bara," which always lingers in the hearts of both peoples. The Japan-Latvia Music Association, which has been extremely active from its inception, is another shining example of true friendship between the two countries. Not many people may know that studying Japanese culture is popular in Latvia as exemplified by the fact that more than 200 students majored in Japanese language or literature at our universities, and that judo, karate and kendo are widely practiced. The foreign minister of Latvia, Artis Pabriks, is known as the only minister in the European Union who has a black belt in karate. In addition, Kobe and Riga established a sister-city relationship in 1974.

In February this year, Foreign Minister Pabriks visited Japan at the invitation of the Ministry of Foreign Affairs, followed by the visit in April of our prime minister, Aigars Kalvitis, on the occasion of the opening of the Latvian Embassy in Japan.

The prime minister held a reception at the Imperial Hotel following the opening ceremony for the embassy, and it was attended by over 200 dignitaries.

Turning to the political aspects of Latvia, the current coalition government led by Prime Minister Kalvitis came into power toward the end of 2004, and was overwhelmingly re-elected in the general election on Oct. 7, 2006. Thus, the country has formed a solid basis of political stability.

After regaining independence from the former Soviet Union in 1991, political and economic conic stability with rapid income convergence.

In 2005, the GDP growth rate reached 10.5 percent followed by an impressive 13 percent increase during the first quarter of 2006, exceeding that of China. In addition, tourism from EU nations has dramatically increased to the level of 3 million in 2005. We are expecting the first visit of the luxury Japanese passenger ship Nippon-Maru in 2008 as a part of its world cruise and I am convinced they are in for a treat.

Latvia joined the WTO in 1999; was acceded by the European Union on May 1, 2004; and joined NATO in 2004. Thus we are benefiting greatly from these memberships not only in terms of allocations and security but also from the knowledge and technological transfers with full EU standards. Relative to the 15 original EU the European part of Russia, Byelorussia and Ukraine. Two of the most modern and capable of handling large-cargo transport among these are the ports of Riga and Liepaja, which act as the gateway to and from Scandinavia, Europe and the rest of the world, including increasing traffic from Japan. Latvia has a fully open capital market and efficient modernized banking sector.

I would also like to point out that Latvia has a large pool of capable IT program designers and operators whose cost is comparatively lower than U.S., European and Japanese levels, and therefore, Japanese industries may wish to consider Latvia as a possible candidate for outsourcing their design and other IT-related needs.

Industry and services occupy 23 percent and 73 percent, re-

New Toky
to Latvia'

By AIGARS KALVITIS
Prime Minister of the Republic of Latvia

It is a particular privilege to ad
dress you on the occasion of th
88th anniversary of the Declara
tion of Independence of the Re
public of Latvia — the key lan
mark in Latvian modern history

In addition, I kindly congrat
late the peoples of Japan an
Latvia on the 15th anniversary
the establishment of diplomat
relations between the two cou
tries.

This year has also bee
marked by the opening of the La
vian Embassy in Tokyo. I official
inaugurated the new legation a
part of my highly productive an
positive visit to Japan in Apr
This serves as a symbol of o
serious commitment to buil

ジャパンタイムスに掲載された独立記念日特集と藤井威会長のメッセージ（下）

Building a harmonious relationship

By TAKESHI FUJII
Chairman, Japan-Latvia Music Association

In July 1998, during my stay in Riga as Japan's ambassador to Latvia, I was fortunate to have the opportunity to enjoy the 22nd Latvian Song and Dance Festival.

Our lovely daughters near.
Our singing sons appear,
May Fortune smiling here
Grace Latvia!

I was filled with wonder when I realized how accurately the lyrics of Latvia's national anthem reflect the heart and spirit of the country.

The following year, I was walking in Cēsis old town. I was completely taken in by the beauty of the castle ruins, once the most important castle of the Livonian Order, and the surrounding park. Cēsis old town, with the nostalgic charm from days of old, made me completely forget the passage of time. And then, when I opened the door of a small church I came across on the outskirts of town, my breath was suddenly taken away by the overwhelmingly beautiful voices, and splendid harmony and rhythm, of the choir practicing there.

These unforgettable memories have since been a driving force in my work for Latvia and its music. As chairman of the Japan-Latvia Music Association, I feel greatly honored to be able to work for and contribute, if even in a small way, to the growing friendship between the two countries. I would, on this occasion, like to congratulate Latvia on the long-awaited establishment of the Latvian Embassy in Japan and the first Latvian Independence Day to be celebrated there.

左から徳田常務理事、顕原運営委員、川越女高指揮者の金井万里子さん

左から桜井珊子桜楓合唱団会長、ヴァイオリニストの白井朝さん、加藤民子さん（加藤専務理事夫人）

リーディング・ドラマ二話

この秋、二つのリーディング・ドラマが話題を呼んだ。一つは、苛酷な運命にもてあそばされた小国ラトビアの家族の悲劇を描いた「溺れる花嫁」（9月23～24日・紀尾井ホール）。もう一つは、日本におけるドイツ年を記念する「朗読と合唱による“舞姫”幻想」（9月30日・王子ホール）。前者は、公演に当たって関係者にドラマの背景を解説した藤井威当協会会長、後者は、朗読を担当した中田薫氏から本紙に寄稿文をいただいた。

朗読劇『溺れる花嫁』の背景

藤井　威

1939年8月、ナチスドイツのヒトラー政権とソ連のスターリン政権との間に独ソ不可侵条約が締結され、それに附属するモロトフ・リッペンドロップ秘密議定書により、ポーランドはドイツの、バルト3国はソ連の勢力圏とする史上悪名高い分割協定が成立した。小国ラトヴィアの悲劇の始まりである。同年9月、ナチスドイツ軍はポーランドに侵入し、第2次世界大戦が勃発し、その分割協定に基づいてソ連赤軍がバルト3国を席巻する。ラトヴィア大統領カールリス・ウルマニスは、涙を飲んでラトヴィア軍に武装解除を命ずるしかなかった。

悲劇に続く、1941年6月、ナチスドイツによるソ連への奇襲攻撃が開始され、続いてバルト3国を攻撃し、ラトヴィアはナチスの支配下に入る。

「ドラマ・リーディング」『溺れる花嫁』は、大国の狭間でいいように翻弄される小国ラトヴィアの中で、苛酷な運命にもてあそばれる一家族の悲劇（美話に近いと言われる）を題材とする。侵入してきたナチスの将校ブラントに協力して生き延びようとするヴァルディスとその献身的な妻サルミーテ、徹底的に追い詰められた2人とその子供たち、戦局は反転し、ナチスの敗退、ソ連軍の反抗攻勢の中で、サルミーテは夫と子供の命を守るために窮極の自己犠牲の道を選ぶ。その結果は、結局この夫婦の人生を完膚なきまでに狂わせてゆくのである。

ヴァルディスとサルミーテ、ブラントとその愛人女優イルマを演じる坂口芳貞、紺野美沙子、今井朋彦、高橋かおりの4人の俳優は、悲劇のほぼ50年後の1990年代、老いたヴァルディスとその孫娘エレナ、エレナの恋人マットとヴァルディスの世話をするイルマの姪ゼンタの二組の役柄を、それぞれ演じ、1940年代と90年代の時差を行き交い、見事な一人二役を演じるのである。

8人の役柄を演じる4人の俳優を、演出家鵜山仁は自在に動かし、4人の俳優の個性を、舞台劇としては極めて単純な「朗読劇」という形式の中で見事に開花させ、緊迫した物語構成のもとで観客の心を徹底的に揺さぶってやまない。4人の俳優のとぎすまされた朗読力の中で、戦争の苛酷さ、残酷さと無意味さ、その中で悲鳴をあげる人間存在のあり方、などの問いかけを観客に投げつける。若いエレナとマットの先行きに淡い希望の光を投げかけつつ終幕となったその瞬間、観客は、深いため息とともに、限られた舞台と上演時間の中に凝縮された人間の重みをひしひしと感じるのである。

なおこのドラマに着目し（作者は豪州人マイネル・フィッチャーとヘレン・ハワード）翻訳の上、わが国での上演をマネージした名和由里は、演出家、出演者など全ての関係者に、このドラマの背景を充分に理解して演じることを求め、元ラトヴィア大使の私のも、背景説明の依頼があった。一つの舞台劇を完成させるために払われた努力の深さに、ここにあらためて敬意を表しておきたい。

（敬称略）

「舞姫」と「愛の歌」
120年の時を超えて
鴎外とブラームスが手を結んだ

中田　薫
（公演の構成・朗読担当）

朗読と合唱がここまで想いを表現し合えるものなのか。期待して始めたこととはいえ、最初の数節を読み終えて合唱に引き継いだとき、その予想を超える舞台効果に思わず目頭が熱くなった。

9月30日（土）、東京銀座王子ホール。演目は「朗読と合唱による『舞姫』幻想」である。テキストは森鴎外のドイツ帰朝三部作の一つ「舞姫」、耳で聞くにはやや難解な美文調の擬古文だ。1時間半に及ぶステージをどう構成するか、ドイツ留学の鴎外25歳、若き日の情熱と懐旧の想いを表現するにふさわしい合唱曲は何か。躊躇なく選んだのがブラームスのワルツ「愛の歌」だった。

場面転換に室内楽と主人公エリスのモノローグをはさむ。朗読の音量に合わせるには小編成の室内楽が最適だ。今回はヴァイオリン、チェンバロ、チェロのトリオとし、導入部の作曲と挿入曲の編曲を仲丘零氏に依頼した。

エリスを登場させたのは、口語で短く心情を表現させ、擬古文の理解に役立てようというねらいからである。前奏曲が終わり舞台上手のエリスにスポットが当たる。

「私はエリス。ヴィクトリア座の舞台に立って早や2年。わずかのお給料で家計を支えた辛い日々…。その頃、あの人はベルリンに向かう旅の途中だった。ああ、私のトヨタロー!」

わずか25秒のセリフが朗読への道筋をつける。ヴィヴァルディのソナタにのせて物語が始まる。

「石炭をば早や積み果てつ。中等室の卓（つくえ）のほとりはいと静にて、熾熱燈の光の晴れがましきも徒なり…」

開幕10分、満を持していたかのように合唱団がワルツ「緑のホップ草」を歌い出す。今回、18曲からなる「愛の歌」のうち何曲かを、朗読の内容に合わせ曲順を入れ換えた。櫻朋会合唱団の皆さんには、この趣旨をよく理解し演奏していただいた。

朗読と合唱の「コラボレーション」と銘打つからには、演奏当日までのプロセスも大事にしなければならない。公演日が近づいたある総練習のときのこと、朗読している耳の奥に男声のハミングが幽かに聴えてくる。訝りながらも読み続けるうちに事態が判明した。継ぎ目なく無伴奏で出なければならない男声部がひそかに音取りをしていたのだ。それが思いがけない効果を生んでいる！　ただちにこのハミングそのものを本番に取り入れることにした。

ロシアからエリスのもとに帰ってくる新年の朝、場面転換に使ったのは少年鼓手の歌である。指揮の櫻井和子さんがアカペラで「トロンメル・マン」を歌いながら登場する。2人の少年鼓手とアコーデオンが続く。鴎外の「うた日記」にあるメーリケ作「Der Tambour」の翻訳詩「鼓手」が思い出される。

「さらば歩哨の外なべて
人馬みな寝る陣の夜を
鼓を前にあかさんを」

1世紀以上も前のドイツと日本、互いに遙か離れた国の間で、人々は何と多くのものを通い合わせたことか。あの頃の期待と憧れを、いままた鴎外の文章が近づけてくれる。この夕べ、120年の時を超えて鴎外とブラームスが手を結んだ。

最後は舞台と会場が一体となり「菩提樹」を合唱した。これも日本人にもっとも親しまれたドイツ曲の一つだ。

次回は何に挑戦しよう。朗読と合唱の組み合わせには、まだまだ多彩多様な可能性がある。

川越女高がラトビア民謡歌い銀賞

全日本合唱コンクール

合唱部員たちに囲まれて記念撮影

10月28日にさいたま市の大宮ソニックシティで行われた全日本合唱コンクール高校部門で、埼玉県の川越女子高校が自由曲にラトビア民謡を演奏し見事に銀賞を受賞した。

同合唱部は以前から松原千振本会常務理事の指導と協力を得て、ラトビアの合唱曲をレパートリーに加えており、3年ぶり3度目の全国大会出場に、ラトビア民謡で挑戦した。部員たちは「ラトビアのイメージを伝えられたと思います。今までで一番楽しく歌えました」で満足な表情。同合唱部顧問で指揮者の金井万里子さんは「賞の色は大事じゃない。みんながラトビアの歌を通じて成長してくれたのが嬉しい」と話した。

アイラさんが同校訪問

日本ラトビア音楽協会の招きで来日したアイラビルジーニャ女史が11月24日、同校を訪問した。先に到着した松原氏、金井指揮者、校長、教頭の出迎えを受け、「歌に命と感動を！愛は勝つ」と大書された横幕の張った練習室へ案内された。合唱部はラトビア民謡を演奏して歓迎、アイラさんはすっかり圧倒されて、感想を求められても最初の言葉がなかなか出てこなかった。圧倒的な声とハーモニーはアイラさんの想像を遥かに上回ったようだった。

歌詞や発音を指導

部員たちはラトビアの著名な指揮者と直接話せる機会に興奮気味で、発音や歌詞の意味を指導され、さらにその背景にあるラトビア文化の小講義を受けて、すっかりアイラさんの虜になっていた。

素敵な出会い

桜楓合唱団会長　桜井珊子（会員）

隅田川の流れを見下ろすマンションの6階…。長唄三味線の第一人者ともいうべき杵屋巳太郎師匠の、瀟洒なお稽古場がその出会いの舞台でした。

主役は合唱王国エストニアを代表する指揮者・音楽教育家、ティーア・エスター・ロイトメ女史です。合唱講習会の講師として来日中の同女史が、講習会の主催者で世話役の松下耕氏（ご存じ合唱指揮者・作曲家）に、日本の伝統的な楽器や音楽を知りたいと希望され、超多忙な3人の出会いが急遽実現しました。

松下さんが指導する合唱集団・耕友会のメンバーの他、巳太郎師匠の弟子である徳田浩さん（当会常務理事・柔道新聞編集長）から誘われた桜楓合唱団のメンバーも参加して、賑やかな出会いの場となりました。

爽やかなグリーンのパンツスーツで現れたロイトメさんは、挨拶が終わるなり、早速師匠が持つ三味線を興味深そうに眺め、「これがシャミセンですか？」と英語で質問。すぐ松下さんの通訳を交えて、巳太郎師匠のレクチャーが始まりました。

左から杵屋巳太郎、エスター・ロメイド、松下耕の各氏

まずバチや糸のこと、続いて「皮は本来ネコを使います。その方がずっと音は良いのですが、丈夫さの点で弱い」「それに比べてイヌの皮は丈夫だけど、響きが劣るのです。だから私たちは、ステージで演奏する時はネコを張ったもの、お稽古の時はイヌの方を使うのですよ」の説明に、ロイトメさん「オー、キャット？」「オー、ドッグ？」と目をパチクリ…。弾いてみてくださると、響きの違いがはっきりわかりました。

さらに巳太郎師匠はいろいろな曲のさわりの部分を弾いてくださり、秋の庭の虫の声や深山幽谷の様子などを、鮮やかなバチさばきで聴かせてくださいました。その豊かな響きは心に浸み入るようでした。ロイトメさんも「ワンダフル」を連発。シンプルな楽器なのに、これほどいろいろな表情の音が出せるとは思わなかったと、感心しきりでした。

また師匠は「三味線や長唄など日本の古典的な音楽は、デリケートな音の違いを楽しむものなのですね。ユニゾンが主で、ハーモニーはほとんどありません」などとお話くださいました。長唄と三味線の楽譜も見せていただきました。でもお稽古の時はほとんど譜面を使わず、先生と生徒は向き合って、先生のお手本を真似して教わるのだそうです。

「さあ、何か弾いてみましょう」と師匠。ロイトメさんと松下さんに「さくらさくら」を手ほどきなさいました。さすががお二人のこと、すぐにメロディーを奏でることができて、皆、拍手喝采。ロイトメさんは目を輝かせ、松下さんは少年のように喜ばれた様子が印象的でした。その後師匠の三味線に合わせて、全員で「さくら」を合唱。

最後に師匠の三味線とお弟子さんの唄で、長唄の名曲「鶴亀」の素晴らしい演奏を聴かせていただきました。この後ロイトメさんは合唱講習会の講師を務められ、次の日はエストニアに帰国されるとのこと。巳太郎師匠は翌日から歌舞伎座に連日出演なさるとのことでした。かつて巳太郎師匠の立三味線を聴いたことがありますが、圧倒的な迫力で客席から役者さんを上回る掛け声が掛かっていました。

TOPICS

女声合唱団フラウリッヒ・ヴォカール第2回演奏会

民族衣装に身を包んで演奏

意欲的に編成した三つのプログラムの第2ステージに「ラトビア合唱曲集」が演奏され大きな拍手を浴びた。会場ロービーには当協会が提供したラトビアのポスターや同国の紹介文が展示され、さらにステージではスライド・ナレーションで同国の気候や街並みが紹介されるなどラトビア情緒一色のコンサートだった。演奏に先立ち、ラトビア在住の黒澤歩さんから寄せられたメッセージが読み上げられ、メンバーは民族衣装に身を包んでステージに登場、美しいメロディーを情緒たっぷりに言語で（もちろん暗譜で）演奏した。演奏したのは「メロディー」「ラトガレ」「イエヴィーニャ」「娘たちよ、夜に歌え」と、最後に「風よそよげ」。

この日のプログラムは

1、西村朗作曲　女声合唱組曲「秘密の花」

2、ラトビア合唱曲集より

3、木下牧子「アカペラコーラスセレクション」「女声合唱による10のメルヘン“愛する歌”より

松下耕編曲「ルロイ・アンダーソン・セレクション」より

代表で指揮者の赤池喜代さんは挨拶の中で「第2ステージにはロシアの向こう、バルト三国のひとつ、ラトビアの音楽をお届けします。民族衣装も揃え、すっかり（私たちは）その気になっていますが、ラトビア語には大変苦労しました。とにかく呪文のように…。どこか懐かしい旋律と澄んだハーモニーが美しい曲です」。

【演奏曲目】

シェイファー曲「自然の声」

間宮芳生曲「合唱のためのコンポジシヨンNo16」

バッヒ曲「菊の園の詠唱」

民謡・フィリピン民謡他（池辺晋一郎、三善晃編曲）

アンコール「風よ、吹け」「さくら（武満徹編曲）」

◇

同行した合唱音楽振興協会の小林信一常務理事によると「メンバーは全員すっかりラトビアのファンになって帰国した」とのこと。

※ラトビアの後はエストニアに移動し、14日・タルトウ市聖ヨハネ教会、15日・ヨホピ市ヨホビコンサートホール、17日・パルヌ市パルヌコンサートホールの3ヶ所で演奏。アンコールにトルミス曲「シニッカの歌」、「さくら」を演奏した。

◇

同合唱団は10月12日に東京文化会館で帰国記念コンサートを開いた。この日は岩城宏之氏の追悼を兼ねて行われた。岩城氏は若い頃、初めて外国で正式に客演演奏をしたのがラトビアで、その時、若い人々のオーケストラのバイオリン奏者にキドン・クレーメルがいたという。

東京混声合唱団がラトビアで公演、絶賛博す

東京混声合唱団が7月7日から18日までラトビア、エストニアの演奏旅行を行い6箇所で演奏して絶賛を博した。指揮は常任指揮者で当協会常務理事の松原千振さん。松原さんは「とりわけラトビアでの演奏会は主催者の準備・受け入れが優れていて各地で意義ある演奏会ができた。アンコールで歌った“風よそよげ”は聴衆が起立して聞いてくれ、団員も感動を抑えられない演奏になった」と話した。

ラトビアの会場は7月8日にワルゲ市カトリック教会、9日にリガ市聖ヨハネ教会、11日がバルミエラ市聖シマニス教会に3ヶ所。

早稲田オケ＆グリー「コラボレーションの夕べ」

9月18日　東京文化会館小ホール

07年に創立125周年を迎える早稲田大学の募金活動に少しでも貢献したいという思いで、加藤晴生当会専務理事が中心になって企画推進したコンサート。早稲田の音楽団体で最も歴史が長い交響楽団とグリークラブの共演が実現した。「コラボレーション」は伝統ある2団体の現役・OBが世代を超えた交流を図り、早稲田音楽の核になる願いを込めて命名された。この演奏会は当会会員の白井克彦早稲田大学総長夫人でバイオリニストの白井朝氏と、指揮者の山本健二氏（会員）が無償出演し、早稲田グリー出身の会員も数多く出演した。会場は超満員に膨れ上がり、純益125万円が大学に寄付された。

都の西北を歌うワセオケとワセグリ（指揮・山本健二）

演奏曲目はバッハとモーツアルトのバイオリン協奏曲と日本の歌合唱集。アンコールに、この日の為に新しく編曲されたオーケストラ・男声合唱共演の「校歌・都の西北」を演奏し、拍手が鳴り止まなかった。

短信

恒例「ラトビア支援チャリティ・ジャズ・コンサート」

北九州在住でラトビア支援の会会長の山本徳行さん（当協会顧問）が12月22日、海峡ロマンホールで恒例のクリスマス・チャリティ・ジャズ・コンサートを開いた。聴衆200名を超える盛会で、NHKとRKBのテレビ2局がコンサートの模様を収録し、翌日放映した。会場で流暢な日本語で挨拶した2名の女子留学生が当地で時の人になるなど、ラトビアをおおいにアピールできたという。

コンサートの収益金は、山本さんが続けているラトビアへの日本語教材寄贈、リガで毎年開催する日本語弁論大会（優勝者を日本に招聘）をサポートする基金に充当される。

東京レディース・シンガース
第36回定演

前田二生氏（当協会会員）が指揮する東京レディース・シンガース第36回定期演奏会が10月16日、紀尾井ホールで行われた。今回も小林秀雄氏への委嘱作品「五つの心象」初演、西村朗氏新作「永訣の朝」女性版初演を中心に、木下牧子氏作曲の叙情溢れる「ファンタジア」など、充実したプログラムで満員の聴衆を魅了した。

◇

同合唱団は12月13日、紀尾井ホールで恒例のXmasコンサート06を開き、B・ブリテン作曲「キャロルの祭典」などを演奏した。

堀俊輔、東響特別演奏会

当協会常務理事の堀俊輔さんが10月24日、東京オペラシティーコンサートホールで行われた東京交響楽団特別演奏会「モーリス・デュフレの響き」をプロデュース、指揮した。平成18年度文化庁芸術創造活動重点支援事業として開催されたもので、「レクイエム」などを熱演。オルガン：鈴木雅明、メゾソプラノ：加納悦子、バリトン：三原剛、合唱：東響コーラス・NHK児童合唱団。

堀さんがデュリュフレの「レイエム」を知ってから20年暖めた企画で、自分の音楽的意図を実現するために出演者の選定から全てに責任を持つため自らプロデュースしたという。毎日新聞の音楽記者・梅津時比古氏は「表街道を走るスターではないけれど、地道な仕事で実力を発揮している音楽家がいる。指揮者の堀俊輔もその一人だ。“ホリヤン”の愛称で呼ばれ、楽団員たちからの信頼は極めて厚い。そのホリヤンが初めて自らプロデュースして表舞台に乗り出した」という書き出しでこのコンサートを紹介した。

◇

さらに堀さんは、11月5日にミューザ川崎シンフォニーホールで行われた川崎市合唱連盟「アニモ」第8回定期演奏会で、バッハ作曲「マタイ受難曲」を指揮した。管弦楽：東京交響楽団、テノール：水越啓、バリトン：三原剛、ソプラノ：佐竹由美、オルガン：藤井美紀、ゆりがおか児童合唱団他。

第22回山本健二リサイタル

当協会会員のバリトン歌手・山本健二さんが12月3日、銀座ヤマハホールで22回目のリサイタルを開いた。“歌詞を見なくても言葉が分り、心にひびく歌い方をしたい。言葉の情感を伝えたい”と、日本歌曲の歌唱創造に取り組み続けた山本さんの集大成ともいうべき名演奏だった。

山本さんはこの程、歌唱アルバム第22集「落葉松Ⅱ」を完成・発売した。自らも“自選歌を残すとすればこの1枚だと思う”と語るほど完成度の高いCD。3500円。リサイタル、CDともピアノは黒尾友美子さん。
問い合わせ：03–3664–0228（ヤマモト音楽事務所）

風呂本佳苗ピアノリサイタル

本号到着後の案内になってしまいましたが、風呂本佳苗さんが07年も1月5日・千種文化小劇場（名古屋）、1月6日・兵庫県芸術文化センター小ホール（西宮）、1月7日・ルーテル市ヶ谷センター（東京）でリサイタルを開きました。タイトルは“Bの饗宴”パート2。バッハ、ブラームス、バーバー、バータリー、バラキレフの作品を演奏。

バルト・北欧の合唱曲に挑戦
第37回桜楓合唱団定期演奏会

10月8日　すみだトリフォニーホール

日本女子大学合唱団OGで編成する桜楓合唱団の第37回定期演奏会でリトアニアの新しいミサ曲「PRO PACE（ミスキニス曲）」を演奏した。独特のリズムと北欧の透明なハーモニーが響く佳曲を好演。指揮は松下耕氏。他に浅見佳奈子指揮で信長貴富曲「空の名前」、藤井宏樹指揮で三善晃曲「ゆったて哀歌集（混声）」、柴田南雄曲「秋来ぬと」を演奏。

ラトビア大使、大鵬薬品㈱を訪問し小林会長と懇談

7月末、ヴァイヴァルス・ラトビア大使がエギリス次席を同行して大鵬薬品㈱を訪問し、小林幸雄会長と約1時間懇談した（写真）。小林会長は抗癌剤共同開発成功でラトビア共和国から名誉博士号を贈られるなど同国の大恩人で、同氏が設立したTAIHOラトビア基金は両国の科学者交流支援など大きな貢献を続けている。大鵬薬品も、大手薬品メーカーが躊躇した制癌剤の錠剤化を実現して患者の負担軽減に大きく寄与し、同社を制癌剤分野で日本一にシェアーを持つ会社に育てた。小林会長から大使館開設を祝う言葉を贈られ大使も大感激だった。

風呂本武敏氏の新刊

当協会会員の風呂本武敏さん（愛知学院大文学部教授・元国際アイルランド文学協会日本支部会長）が「見えないものを見る力…ケルトの妖精の贈り物」を春風社から刊行した。2190円（税別）。「この世の中のほんとうの姿とは何か？〈見えないものを見る力〉を大切にする、妖精の国アイルランドの文化・歴史・文学の魅力を解き明かす傑作エッセイ」（帯書きより）
問い合わせ：045–261–3168(春風社)

ラトビア情報

現地少女合唱団訪日計画

黒澤　歩

知り合いの少女合唱団RESONO（レソノ・総勢25名）が、07年4月上旬（11日から19日）に、自費で日への演奏旅行を計画しています。全く自分たちの意思での計画であり、私はそのコンタクトをとる手伝いをする形になっています。まず、関西空港に到着するので、徳島にあるラトビア合唱曲をレパートリーとする女声合唱団とのつながりで、ホームステイや地元公民館での演奏会などの企画の受け入れをお願いしていますが、日程すべてを徳島で受け入れてもらえるわけではないので、何かご協力を得られないものかご相談させてください。

日本までの旅費、日本での移動費用は自分たちで賄いますが、経費節減に必死で、出来るかぎりホームステー先を確保することが問題です。演奏旅行といっても。チケットを売る演奏会ではなく、自分たちの歌声を披露することを目的としています。

政治経済の動き

長塚　徹
（ラトビア投資開発会社）

第二次カルヴィーティス内閣誕生

10月7日に行われた総選挙の結果、11月6日、国民党アルガイス・カルヴィーティスを首班とする第二次カルヴィーティス内閣が発足した。選挙前の内閣が国民の信頼を受けて再度国政を担当するのはラトビア憲政史上初。

NATO首脳会議開開催

11月28・29日の両日、リガNATO首脳会議が開かれ、加盟26ヶ国首脳は「リガ首脳会議宣言」「総合的政治指針」に合意、発表した。

EU最高の経済成長率を記録

05年ラトビアの国内総生産は10.2%増で、EU諸国中最高。04年8.6%、03年7.2%でラトビア経済は順調に拡大している。

1500万ユーロを融資

ラトビア投資開発公社は、05年にラトビア企業に対して1500万ユーロ（約30億円）を融資した。

両陛下、ラトビア公式ご訪問

一部報道が先行した天皇皇后両陛下の欧州ご訪問に関し12月15日、政府は07年にスウェーデン、英国、バルト三国へ公式ご訪問願うことにしたい旨、閣議決定した。日程は5月21日から約10日間の予定。初のラトビアご訪問で、両国の友好・親善がさらに強化、増進されることが期待される。

寄稿

リガ城弾薬庫博物館で発見した日本

白石仁章
（外務省外交資料所）

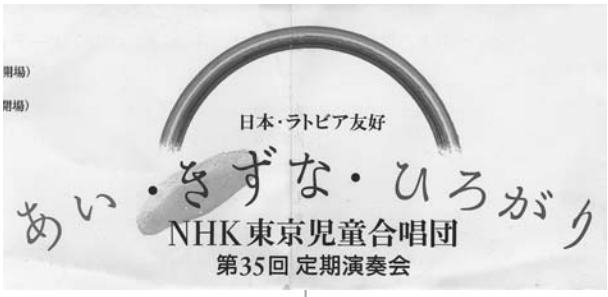
ヨーロッパ中世の趣を残す美しい街、ラトビアの首都リーガ。そのリーガの旧市街に、かつて火薬を保管することに使われたレンガで造られた円形の塔がある。現在は戦争博物館となっており、中は多数の部屋に分かれていて、武器など多数の戦争関連の品々が展示されている。例えば、ある部屋に、フェンシングのマスク、ユニフォーム、剣が展示されていて学生時代にフェンシング部にいた筆者は嬉しさを感ぜずにはいられなかった。

そのように様々な展示品を見、「今度の部屋には何があるのかな」と、わくわくしながらある部屋に入っていくと、その部屋の監視員の女性が筆者の顔を見るなり、ニコニコしながら近寄ってきて、「あなたは是非これを見て行きなさい」と、ある展示品の前に連れて行ってくれた。驚いたことに、その展示品は日の丸の旗で、右端に大きく墨で「祈武運長久」と書かれ、日の丸の赤い丸の周りに50人近い日本人の名前が記されていたのだ。これは一体何なのであろうか？　何故ここに展示されているのであろうか？　興味津々で早速英文解説を読んでみた。すると、この日の丸は、終戦直後にソ連が樺太（サハリン）を占領した際に、抑留された日本人達にラトビア出身でソ連軍に召集された一人の医師が日本の抑留者達を親身に世話したので、彼への感謝の気持ちを込めて贈ったのがその日の丸の旗だというのだ。

当時のラトビアは、ソ連により併合され、多くの国民がシベリアに送られ悲惨な状況にあった。そのラトビア出身の医師の目には、恐らく抑留された日本人達に同胞の姿が重なったのではないだろうか。また、敗戦で打ちひしがれた日本人達には、親切に接してくれる医師の存在が、どれだけありがたい存在であったか、察するに余りある。そして、それぞれ悲惨な状況にあった両国民の間に美しい友情が芽生え、その象徴が今目の前にあるかと思うと深い感動に包まれた。絶望のどん底にあった日本人達に暖かい手を差し伸べてくれたラトビア人の存在を是非多くの日本人に知って頂きたいと思っていたが、今回ようやくそれがかない、大変嬉しい。そして、私が記念の日の丸が展示された部屋に入った瞬間にすぐに声をかけてくれたおばさん、今にして思えば、欧米人の目から見れば、東洋人の中で日本人を見分けするのは困難であるにもかかわらず、私を一瞬で日本人だと判断してくれたおばさんに心から感謝したい。

琥珀

11月27日夜、N児定期演奏会の最終ステージに、小学生から高校生まで全団員240余名が勢揃いした。真っ赤なステージドレスに身を包んでアイラさんが大きな拍手で登場した瞬間、私の胸にぐっと込み上げるものがあった。そして、ライモンズ・パウエル編曲の「生きることはいいことじゃない？」が会場いっぱいに響いた時、思わず涙が溢れそうになるのを必死でこらえた▼難しいラトビア語を、子供たちは完全に自分の国の言葉のように伸び伸び歌っている。私自身の合唱経験を振り返っても、外国語の歌を歌う時は発音を覚えるのが精一杯だったが、N児の子供たちは言葉の意味まで完全に理解して歌っている。“よく覚えたな”という次元をはるかに超えている。手作りの大きな地図でラトビアという国を紹介し、次に歌う曲を代わる代わる分りややすく解説する子供たちは、日本からはるか離れたラトビアという国を、美しいアイラさんを通じて大好きになっていた。アンコールに歌われたお馴染みの「風よそよげ」は、信長貴富氏のアレンジで日本ラトビア共通の歌になった。演奏が終った瞬間、私は言葉が出なかった。横の席にいた会員の清水光子さんに、“凄いですね！”と全くセンスのない言葉を発するのが精一杯だった▼日本ラトビア音楽協会が誕生して2年目に、早くも素晴らしい成果が実ったが、今年の秋は徳島、埼玉でもラトビアの歌が美しく鳴り響いた▼11月2日、徳島の女声合唱フラフリッヒ・ヴォカール第2回定期演奏会は、会場にラトビアの歴史や日本との関わりなどが詳しく紹介され、写真、ポスターが彩り豊かに展示されてラトビア一色の雰囲気が醸し出されていた。そしてメンバー21名は第2ステージ「ラトビア合唱曲全集より」を民族衣装に身を包んで愛らしく表情豊かに演奏した。冒頭にリガ在住黒澤歩さんの素敵なメッセージが読み上げられ、アンコールは地元男声合唱団もオンステして「風よそよげ」を感動的に歌った▼演奏会前に、代表・指揮の赤池嘉代さんから寄せられた便りの一部を採録したい。「3年前、夫がたまたまラジオで聴いたものを薦めてくれたのが始まりでした。それはリーガ室内合唱団《アヴェ・ソル》のものでした。言葉も分らない、ラトビアってあのバルト三国の？…。しかし、その懐かしくも暖かい、心に響く旋律とハーモニー、さらに“歌う革命”というくだりは私を夢中にさせました。手に入る楽譜を取り寄せ、言葉を調べて、団の仲間たちに新しいレパートリーに挑戦し、この素敵な音楽を徳島の皆さんに紹介しようと熱く語りました。北海道東川町ラトビア交流協会、ラトビア在住の黒澤歩さんにいろいろ教えていただき、さらに日本ラトビア協会のお仲間に加えていただき、ラトビアが近くなったように感じられます…」▼埼玉県の川越女子高が、10月29日に大宮市で行われた全日本合唱コンクール自由曲にラトビア民謡を歌い、銀賞を獲得したことも嬉しいニュースだった。後日、同校を訪問したアイラさんが、一糸乱れぬ歌唱、豊かなヴォリュームと表現力に感嘆した。当協会の松原千振常務理事が積極的に薦め指導した背景があったが、ラトビア独立記念日レセプションに出席した指揮者の金井万里子さんは「ラトビアのイメージを充分伝えられたと思いますが、何よりも生徒たちがラトビアの歌が大好きになったことが大きな収穫でした」と話していた▼当協会の活動を富士登山に譬えれば、やっと麓に到着にしたというところだろうが、大きな目標に向かって着実に歩み始めた。加藤晴生専務理事は指揮者交流プロジェクト3・4弾の打診を始めた。日本の合唱ファンに幅広く歌ってもらうために、楽譜出版も具体化しなければならない。ゆるやかなペースながら会員数も少しつづ増えている。07年はいよいよ山登りにさしかかる。（徳）



情報断片

○…かつて二人の友人のお嬢さんがN児に在籍していたこともあって、定期演奏会はかなり長い期間聴き続けていましたし、人数も含めて世界に誇る少年少女合唱団だと思っていましたが、久しぶりに聴いてその思いを益々深くしました。小学2～4年のジュニアクラス、小学5・6～中学1・2年のシニアクラス、中学3～高校1・2年のユースクラスに分かれ、1～3ステージはそれぞれのクラスが単独で演奏しました。いずれも優れた指導者の下で充分な練習を伺わせる、ため息が出るほど見事な演奏でした。そして最後に全員がオンステして、アイラさんが振る感動のステージになりましたが、言葉はもちろん、ラトビアの素晴らしさを教え続けた日本側の指導者に頭が下がりました。本当に幸せな子供たちだなと、つくづく感じました。N児は毎年各クラスの新しいメンバーを募集しますが、平成19年は2月頃オーデションがあるそうです。詳しくはNHK放送センター内の合唱団へ。電話は03–5455–3143です。

○…近年ラトビア出身音楽家の人気が高まっています。決して気のせいではなく…。仏誌ランクによるオーケストラ部門ではロイヤル・コンセルトヘボーが堂々2位、1位のウィーンフィルとは僅差で、3位のベルリンフィルを大きく引き離しました。明らかにヤンソンスの指揮が高い人気につながっています。

もう一つびっくりしたニュース。創立から150余年の伝統を持つウィーン男声合唱団が保有する国宝級の楽譜、ヨハン・シュトラウスの「青きドナウ」の肉筆楽譜を競売会に出品するとか。最も優れた音楽国でも、代表的な合唱団の経営難があるのですね。まさか日本人が落札することはないと思いますが…。

○…この号は年内にお届けするはずでしたが、年末に私の義母が他界したため作業が遅れました。お詫びします。07年も会員各位がさらに大きく飛躍される年になるようお祈りします。（徳）

大鵬薬品

愛情一本。

チオビタ®・ドリング

滋養強壮・虚弱体質・栄養補給

[用法・用量]成人(15歳以上)1日1回1瓶(100mL)を服用。タウリン1000mg

医薬部外品

チオビタ®・ドリング

チオビタ®ドリング ヘルシー

日本ラトビア音楽協会　会員名簿　（06年12月1日現在）

※　の方々が新しい入会者です

（氏　名）	（県　名）	（所属等）
［名　誉　会　員］		
ペーテリス ヴァイヴァルス ※	日　本	駐日本国ラトビア共和国大使
［個　人　会　員］		
赤　池　喜　代 ※	徳　島	女声合唱団フラウリッヒヴォカール
安　斎　眞　治	千　葉	早稲田大学グリークラブOB会会長
池　上　隆　一	東　京	
石　井　洋　一	東　京	早混稲門会
石　渡　迪　康 ※	千　葉	青山学院大学グリーンハーモニー合唱団OB会元副会長
石　川　晴　彦	東　京	㈳出版文化国際交流会副会長
石　川　　了	東　京	東北新社／クラシカ・ジャパン
石　原　祥　弘	千　葉	早稲田大学グリークラブOB会
石　坂　　廬	神奈川	笹川平和財団
磯　部　光　正	東　京	早稲田大学グリークラブOB会
板　垣　忠　直	福　島	福島県芸術文化団体連合会副会長
伊　東　一　郎	埼　玉	早稲田大学文学部教授
稲　山　輝　機	神奈川	毎日新聞／専務取締役
井　下　佳　和 ※	北海道	北海道東川ラトビア交流協会
今　澤　哲　朗	東　京	東京稲門グリークラブ／幹事長
岩　崎　朋　子	東　京	㈲巣巣／代表
内　野　　力 ※	東　京	日本ヒューレット・パッカード㈱
梅　原　由紀子	大　阪	コーロ・ヌォーヴォ
頴　原　信二郎	東　京	早稲田大学グリークラブOB会
遠　藤　守　正	神奈川	遠藤税理士事務所
大　澤　寛　之	埼　玉	稲門グリークラブシニア会
岡　村　喬　生	東　京	オペラ歌手
岡　安　弘　二 ※	東　京	
岡　安　陽　子 ※	東　京	
小　川　　翠	神奈川	邦楽演奏家
小　野　啓　祐 ※	埼　玉	新座ロータリークラブ
小　俣　泰　英 ※	千　葉	早稲田大学グリークラブOB会
小山田　安　宏	東　京	日本水路協会
オレグ・オルロフ	日　本	ラトビア大学
加　藤　登紀子	東　京	歌手
加　藤　晴　生	千　葉	平成ビジネスアソシエイツ㈱
角　谷　　仁	兵　庫	かどたに内科医院／院長
金　井　万里子	埼　玉	川越女子高校　顧問
金　岡　　隆	神奈川	早稲田大学商議員
神　郡　克　彦	東　京	長崎大学教授
川　島　泰　彦 ※	静　岡	日本ボーイスカウト　富士地区
菊　地　康　則	東　京	日本ガルータ協会代表
北　畑　雅　敏	兵　庫	神戸中央合唱団
工　藤　悠一郎	東　京	東京稲門グリークラブ／指揮者
熊　谷　敬　子 ※	東　京	当会前会長夫人
黒　沢　　歩	ラトビア	ラトビア語翻訳家
黒　澤　幸　男	東　京	くらしき作陽大学音楽学部教授
ケイコ・マクナマラ	東　京	歌手・ピアニスト
小　礒　　明	東　京	ラトビア共和国広報センター代表
耕　納　邦　雄	東　京	稲門グリークラブシニア会指揮者
小　林　　晃	東　京	日本大学教授
小　林　信　一	東　京	㈶合唱音楽振興会常務理事
小松原　る　な	東　京	カンツォーネ歌手
小　山　雄　二 ※	大　阪	㈶啓明社　専務理事
斎　藤　　哲	神奈川	日本経済新聞社社友
坂　田　知　子	福　島	スコラカントルム福島／マネージャー
坂　場　孝　之	千　葉	稲門グリークラブシニア会／幹事長
嵯峨山　まり子	兵　庫	魚住コーラス「わかくさ」指揮者
桜　井　珊　子	東　京	桜楓合唱団／会長
迫　　秀一郎	東　京	サンルートプラザ東京総支配人
佐々木　武　彦 ※	東　京	東京混声合唱団
島　田　精　一	東　京	住宅金融公庫総裁
清　水　卓　爾	東　京	東京稲門グリークラブ
清　水　信　行	神奈川	三井物産㈱／（元）常務取締役
清　水　　實	東　京	㈱アイラス／取締役
清　水　光　子	東　京	国立楽器
下　田　博　郎	東　京	慶応義塾ワグネル・ソサィエテイ男声合唱団三田会　会長
ジャネット・スードニェツェ	東　京	パレックス銀行／東京事務所長
白　井　克　彦	神奈川	早稲田大学総長
菅　谷　信　雄	東　京	㈲マーキュリー物産
杉　浦　保　友	千　葉	一ツ橋大学教授
鈴　木　健　三	神奈川	
鈴　木　秀　洋	東　京	鈴木人事総合研究所
鈴　木　洋　子	東　京	
洲　脇　光　一	兵　庫	合唱指揮者
関　口　教　和	東　京	稲門グリークラブシニア会
滝　澤　文　一	東　京	リャザン・ロシア国立教育大学
武　内　　正	東　京	武内公認会計士事務所
舘　野　美　久	東　京	国際臨海開発研究センター
田　中　　亨 ※	東　京	日本ラトビア共和国大使館　顧問
田　中　　宏	山　形	日本の歌を歌う会
田　摩　　勇	千　葉	NHKエンタープライズ
筑　紫　哲　也	東　京	ジャーナリスト
辻　田　行　男	埼　玉	辻田建築事務所
土　屋　昌　也	東　京	稲門グリークラブシニア会
戸　叶　孝　一	東　京	
戸　田　智　子	東　京	富士通
徳　田　晶　子	東　京	前 青山学院大学
徳　田　　浩	東　京	柔道新聞編集長
冨　永　　侃	兵　庫	早稲田大学商議員
長　井　秀　行	神奈川	横浜稲門グリークラブ
中　井　弘　明	東　京	平成ビジネスアソシエイツ㈱常務執行役員
中　澤　　亨	神奈川	横浜稲門グリークラブ
長　澤　　護	東　京	早稲田大学グリークラブOB会前会長
中　嶋　勝　彦	東　京	東京稲門グリークラブ
中　田　　彪 ※	東　京	
中　田　迪　子 ※	東　京	
中　村　昭　貞 ※	東　京	東京稲門グリークラブ
永　田　　宏	東　京	三井物産㈱／顧問
長　塚　　徹 ※	ラトビア	ラトビア投資開発公社
奈良原　秀　三	神奈川	早稲田大学グリークラブOB会
並　木　恒　夫	東　京	
西　川　新八郎	東　京	スキル一級建築士事務所＆コンサルタンツ
西　原　義　弘	北海道	北海道東川ラトビア交流協会会長
西　脇　久　夫	東　京	ボニージャックス
西　山　正　俊	千　葉	東京稲門グリークラブ
根　本　保　子	東　京	日本フィル協会合唱団
野　瀬　一　郎	東　京	早稲田大学グリークラブOB会
野　村　壽　子	東　京	㈱ネットワーク21
野　村　三　郎	ウィーン	メロス音楽研究所代表
橋　本　恵　子	千　葉	前 サンルートプラザ東京
秦　　フ　サ ※	東　京	
久　元　祐　子	東　京	ピアニスト
藤　井　明　子	東　京	
藤　井　　威	東　京	㈱みずほコーポレート銀行／顧問
福　井　忠　雄	東　京	福井自動車㈱／会長
福　田　美　保	大　阪	女性指揮者の会／副代表
藤　原　桂　子	兵　庫	女性指揮者の会／代表
風呂本　武　敏	兵　庫	愛知学院大学教授
風呂本　惇　子	兵　庫	城西国際大学教授
堀　内　啓　吉	神奈川	早稲田大学グリークラブOB会
堀　　俊　輔	埼　玉	指揮者
堀　口　大　樹 ※	東　京	東京外国語大学
堀　川　　汎	東　京	
前　田　幸　子	兵　庫	神戸中央合唱団
前　田　二　生	東　京	指揮者
松　原　千　振	兵　庫	東京混声合唱団／常任指揮者
松　本　数　馬	東　京	三井住友VISA
水　谷　鏡　子	東　京	㈲華のハーモニー
三　巻　義　夫	神奈川	横浜稲門グリークラブ
三ツ松　　平	愛　知	男声合唱団グランフォニック／団長
宮　崎　勝　治	神奈川	（元）朝日新聞ヨーロッパ総局長
宮　尾　益　治	新　潟	新潟放送参与
宮　地　和　夫	神奈川	ローガンDX
村　山　喜一郎	埼　玉	日本エストニア友好協会
森　川　　智	東　京	ヤマト科学㈱
八　木　昌　子	東　京	桜友女声合唱団／責任者
山　本　恭　子	兵　庫	コーロ・アロードラ
山　本　健　二	千　葉	声楽家　指揮者
山　本　茂　男	東　京	稲門グリークラブシニア会
山　本　徳　行	福　岡	北九州スウェーデン名誉領事
山　元　淑　乃	ラトビア	ラトビア大学現代言語学部東洋学科講師
山　根　秀　夫	兵　庫	神戸新聞会長
山　脇　卓　也	東　京	日本無線㈱／合唱指揮者
吉　田　ラスマ	埼　玉	（元）外交官（ラトビア共和国外務省）
レディー・マークス寿子	東　京	作家　秀明大学教授
［団　体　会　員］		
有限会社　巣　巣		東京
コーロ・ノーボ		大阪
東京六大学合唱連盟		東京
東西四大学合唱連盟		東京、大阪、神戸
神戸中央合唱団		兵庫
北海道東川ラトビア交流協会		北海道
川越女子高校音楽部		埼玉
女声合唱団フラウリッヒ ヴォカール ※		徳島
［国　外　会　員］		
アウスマ　デルケーヴィッツア	ラトビア	ラトビア民族合唱祭名誉指揮者
エドガルス　カッタイ	ラトビア	ラトビア・日本協会会長
ダッチェ　アダムソン	ラトビア	ジンタルス指揮者
アイラ　ビルジーニヤ	ラトビア	指揮者

名誉会員1名　個人会員136名　団体会員8名　ラトビア国内会員4名

速報　やながわ女声コーラス、ラトビア演奏旅行

福島在住会員の板垣忠直さんが指揮する「やながわ女声コーラス」が、4月17日から25日までスウェーデン・ラトビア演奏旅行を行う。ラトビアではリガとダウガピルスで演奏会を開く。詳細次号

訂正　前号名刺広告の西原義弘北海道東川ラトビア交流協会会長のメールはnishisan1@msn.comです。お詫びして訂正します。